

## 市民フォーラム 2 1 第 6 回環境部会 会議録（概要）

月日 平成 18 年 1 月 27 日（金）

時間 午前 9 時 30 分から

場所 第一庁舎 8 階 第三委員会室

事務局から別冊資料に基づき、第 3 回総合計画審議会について報告するとともに、資料 1・2 に基づき、基本構想 施策の大綱素案たたき台（環境分野）及び部会間の調整事項について説明

部会員

「3 安全で快適な生活環境の形成」の 1 つ目の内容はよく読むと、わかりにくく、おかしな感じがする。不法投棄は“未然”防止でよいのか。「環境の悪化を防止するため」はなくてもいいように感じるので、「不法投棄の防止を図るため、適正な廃棄物の処理を推進します。」ではどうか。

部会員

ここでは「不法投棄の防止」と「適正な廃棄物処理」の 2 つのことが書かれていると思う。

部会員

そのとおりであり、2 つのことがひとつにまとめて書かれているので、どうしようと悩む。

専門部会員

廃棄物の適正処理が重要であると思うので、前に出して「環境の悪化を防止するため、適正な廃棄物の処理を推進するとともに、不法投棄の未然防止を図ります。」としてはどうか。

部会員

後段は「環境の悪化を防止する適正な廃棄物の処理」にしてはどうか。不法投棄の視点も重要でないか。

専門部会員

前回は「不法投棄の未然防止と適正な廃棄物処理の推進」となっていたもので、ワークショップで不法投棄の問題が多く出されていたから、掲げていたものだと思うが、どうして今回、このようにしたのか。

事務局

「不法投棄の未然防止」と「適正な廃棄物処理の推進」の 2 つを盛り込みたかった。「不法投棄の未然防止と適正な廃棄物処理の推進」としていた場合に「不法投棄の未然防止」は誰がみてもわかるが、「適正な廃棄物処理の推進」はわかりにくいと思い、修飾する言葉として当り前のことであるとは考えたが、「環境の悪化を防止するため」を付け加えた。また、先程あった提案のとおり「環境の悪化を防止するため、適正な廃棄物の処理を推進するとともに、不法投棄の未然防止を図ります。」としても、2 つ盛り込めると考える。

専門部会員

今の事務局案では「環境の“悪化”を防止するため」としているため、総合計画で“悪化”を使用するのはどうかと思う。2 つのまとまりを掲げたいのであれば、「基本計画に向けた要素」

の中にあるものを使い、「不法投棄の未然防止を図るとともに、“周辺環境に配慮した”適正な廃棄物の処理を推進します。」としてはどうか。

部会長

この部分の議論はこのくらいにしたい。他にないか。

部会員

「2 資源が循環する環境共生都市の実現」の2つ目は文章としてはいいと思う。ただ、「3 R」とあるが、これはごみを出すことを前提にしているものであるので、ごみを出さないという視点で書く必要があるのではないか。

部会員

環境省では「3 R」を使っているし、他の市町村ではあえてリフューズを入れて「4 R」としているところもあり、3とか4とか5なんていう議論はもちろんしたくない。事務局からはこれらを踏まえて、文章で書いたらという提案があったと思うので、文章にしてもいいように思う。

部会長

事務局では、どういう理由で「3 R」にしたのか。

事務局

ワークショップを踏まえて「3 R」にしたのもであるが、「基本計画に向けた要素」にも当初、「3 R」としており、わかりやすくするための工夫をした経過がある。今回、注釈を付けるに当たり、長くなるが、文章に置き換えることも可能であると考え提案した。

専門部会員

リフューズはリデュースに含まれると考える方もいる。3なのか4なのかという議論はどうかと思う。大塚部会員のご意見はゼロ・ミッションのことであると思うが、主文は循環型社会ということなので、これでいいと考える。注釈を本文に置き換える方向がいいと思うが、一言で表現することは難しいので、ご議論いただきたい。「基本計画に向けた要素」には「資源循環型社会の実現」と併せて「意識の醸成」と「ごみの減量化と再資源化」があり、2つを合わせて、ひとつの文章にしていると解釈しているが、「意識の醸成」は環境教育や環境学習により達成できるので、「意識の醸成」だけでなく、「ごみの減量化と再資源化」という取組にまで踏み込む必要があり、「3 Rの取組を通じた・・・」にしたほうが良い。

部会員

「3 R」が社会的に普及しているのであれば、使ってもいい。現実には難しいと思うが、あえて長野市の姿勢としてゼロ・ミッションの理念も入れられるのであれば、入れるべきでないか。

部会員

使い慣れているので疑問に感じなかったが、わかりやすさということでは文章にしたほうが良い。

部会長

あまり細かく文章にしてしまうと、基本計画に入ると難しくなると思うが、今までの意見を踏まえて事務局側ではどうか。

事務局

「ごみを減らし、使えるものは繰り返し使い、ごみは資源として再び利用する意識（取組）の推進により、資源循環型社会の実現を目指す。」ではどうか。

専門部会員

やはり言葉にすると難しい。「発生抑制」と「排出抑制」のどちらを使うかが議論になるようなこと。

部会長

今の議論を踏まえて作文してほしい。他にないか。

部会員

「3 安全で快適な生活環境の形成」の2つ目の前段がわかりにくい。「・」の使い方がわからない。

事務局

「都市・生活型公害」という言葉は国の環境白書において使われているもので、引用した。「・」の使い方については、「監視“と”指導」、「監視“及び”指導」よりも極めて両者が近く、並列に並ぶ括弧の場合に使っている。

専門部会員

長野市の環境白書は「生活型公害」を使っており、「都市・」を削除したほうがわかりやすくなる。

部会員

「都市」となっていたので、戸隠は関係ないのかと思った。

事務局

「生活型公害」にしたい。

部会長

「注釈5」の中にいくつか具体例があるが、木質バイオマスをいれてほしい。

専門部会員

「今まで使われずに捨てていたエネルギー」の例も挙げていたらどうか。

部会員

この注釈の中に、エネルギーの地産地消を意識した内容を盛り込んだらどうか。

部会員

「パートナーシップ」と「協働」の意味の使い分けが難しい。名詞と動詞といような使い分けには無理がある。「まちづくりの方向性」にある「パートナーシップ」は「協働」でないか。もうひとつ、「景観の形成」にも「パートナーシップ」があるが、これも「協働」だと思うので「協働」に統一したらどうか。長野市では「協働」や「パートナーシップ」と言っておきながら、環境以外の分野には「協働」や「パートナーシップ」の言葉が見当たらない。総合計画の重要なポイントであるので、地域コミュニティと併せてまちづくりの基本のようなものをどこかに載せる必要がある。環境分野だけ出てきている言葉なので、全体のバランスを考える中で注釈を考えてほしい。

事務局

これからのまちづくりには「パートナーシップ」・「協働」は欠かせない視点であると考え、第四次総合計画では新たなパートとして「まちづくりの方針（都市経営戦略）」を設け、「パー

トナーシップによるまちづくり」等の3つの視点を掲げていきたいと考えている。

部会員

「まちづくりの視点（都市経営戦略）」を見ると、やはり「パートナーシップ」と「協働」は同義で使われているように思える。「まちづくりの視点（都市経営戦略）」で「パートナーシップによるまちづくり」と書くのであれば、環境分野では「パートナーシップ」に統一すべきでないか。「まちづくりの視点（都市経営戦略）」で「パートナーシップによるまちづくり」を掲げておきながら、環境以外の分野で見当たらないのは不思議である。道路ではアダプト制度もあるし、今年のような除雪（雪対策）もみんなやらなければいけないことなのだから、環境以外にもあってしかるべきでないか。

部会長

他の分野についてのことは審議会での議論に挙げていきたい。環境分野のことについては、事務局で今の議論を踏まえて考えてほしい。

事務局

前回の部会で決定いただいた方向性を踏まえた中で、注釈を付けたものである。「パートナーシップ」と「協働」に注釈を付けるに当たっては、長野市が作成した「市民公益活動促進のための基本方針」から定義を引用したものであるので、一般に使われているのであれば削除しても構わないと考えている。しかし、環境分野においては「パートナーシップ」は重要な要素であるので残していきたい。他分野の件に関しては事務局内で調整・検討したい。

部会員

資源と言っても広いので、資源循環型社会の実現の中には水資源や森林資源の観点も入れたらどうか。ワークショップでは里山の整備や河川環境の整備ということが出てきていたので、石油エネルギーに替わるものだけを捉えているのはどうかと思う。どこかの分野で考える必要がある。

部会長

確かに、他分野に関わることでもあるので審議会に提案していきたい。また、環境分野においても、基本計画の段階で考えていきたい。複数の分野に及ぶ話題になったので、資料2についてのご意見も伺いたい。どこかひとつの分野で中心に議論するよりは多角的に議論する必要があるものもあろうし、そうでないものもあると思う。

部会員

「居住環境の整備」については、災害時の対応等のソフト的なことを想像してしまい、「3 安全で快適な生活環境の形成」にピッタリこない。

専門部会員

景観については大変広く、自然・歴史・文化にまで及ぶことなので、そのへんを踏まえて議論いただきたい。

部会員

基本計画に落ちた時に、景観はひとつの分野に載せるのか、それとも複数の分野に載せていくのか。

事務局

夏頃までは環境分野を中心に、多角的にご議論いただきたい。その後、審議会においてひと

つの分野に載せるか、複数の分野に載せるか決めていきたい。

部会員

環境に関する意識調査の結果をいただいたが、多変量解析のような分析はしないのか。

専門部会員

概略の速報であり、まだ一部のものである。今後、クロス集計も予定している。できあがり次第、提出する。

専門部会員

「地球温暖化“防止”対策」なのか「地球温暖化対策」なのか、統一する必要がある。

専門部会員

事務局で統一する必要がある。

部会長

ご議論いただいた環境分野を次回は、素案たたき台から案にしていきたい。次に行政経営の方針について事務局からお願いしたい。

#### 事務局から資料1に基づき、行政経営の方針について説明

部会員

基本構想の構成の「目標編 まちづくりの視点(都市経営戦略)」・「まちづくりの基本方針編 行政経営の方針」・「まちづくりの基本方針編 まちづくりの方針(施策の大綱)」において「協働」が多く使われているが、それぞれ主体がバラバラで「市民、地域、関係団体等や行政」もあるし、「地域、事業者NPO及び行政等」となっている場合もある。環境分野では環境省が「市民、事業者及び行政」と謳っているから仕方ないと思うが、長野市の総合計画を考える上では、上手く統一したらどうか。

事務局

事務局では検討した経過があり、それぞれの分野において、中心的なものを掲げて表記している。しかし、再度、統一の必要性について検討したい。また、「パートナーシップ」と「協働」の使い分けについても、事務局で検討したい。

佐々木作業部会長

簡単に今後の流れについて説明してほしい。

事務局

前回までは、10・11月のワークショップを足がかりに作成した基本構想 施策の大綱の骨子を方向性として決定いただいた。今回はその方向性を文章化し注釈を付け、素案たたき台として示している。次回はこの素案たたき台を素案にしていくと同時に、漠然とした抽象的な議論から少し踏み込んだ基本計画へ入っていきたい。具体的にはまだ詰まっていないが、枠組みを示して、議論の取っ掛かりにしていきたいと考えている。

部会長

先に進みながら、後ろを振り向きつつ議論していただきたい。これで終了したいが、よろしいか。では環境作業部会を閉じる。